



## 「CS教師の資質⑦ 祈る教師」

支援教師 奈良 献児

いよいよ、教会学校教師の資質の学びも最後になりました。今までの世の光誌における誌上の研修はいかがでしたか。今回は、教師の祈りの生活の大切さを共に考えていきましょう。

### 1. なぜ祈るのか

教会学校の教師ではなくとも、キリスト者であれば誰もが何かを始める時には主に祈ることでしょう。だから、教会学校を始める時だけでなく、子どもたち一人ひとりのために、また教会学校のあらゆることのために祈るのです。

しかし、ただ祝福を願って祈るだけでなく、教会学校に加えられるあらゆる霊的な攻撃や子どもたちに加えられる精神的、肉体的攻撃から守られるようにも祈るのです（「あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。」第1ペテロ5章8節）。

ですから、ただ祈るのではなく、自分は何を祈っているのかを正しく把握しておく必要があります。

なぜ、教師たちは教会学校のために祈ることをその資質として問われているのでしょうか。それは主に祈った時に、主のみ業をそれぞれが体験してきたことを踏まえ、教会学校にも主がみ業をなしてくださることを期待するためなのです。

今の子どもたちは、自分の未来に不安を覚えていたり、自分の体験したことの無い事への恐怖心を持っていたり、友だちや親しい人からの愛情を失うことを恐れています（「あなたの幼子たちのために祈れ。彼らは、あらゆる街頭で、飢えのために弱り果てている。」哀歌2章19節）。その様な恐れと不安を取り除いてあげるためにも、彼らのため、そして彼らに奉仕する自らのためにも祈ることが大切なのです。

### 2. 祈りの生活

とは言え、教師たちがいきなり祈りに始まり、祈りに終わる教会学校の運営をするということは、一朝一夕には出来るものではありませんね。個人の祈りの生活の充実があって初めて教会学校でもそれが実現していくのです。自らの霊的な力の補給なく

しては、霊的なことを語り行なうことは出来ないのです。お話を組み立てるためにだけ聖書を読むということをしなくて、まずは一人のクリスチャンとしてみことばに親しむことから、教師の資質が育っていくのです。

自らの霊的な充実が無ければ、今まで私たちが本誌を通して学んできた教師の資質を十分に備え、実施する力が足りなくなるからです。よく騒ぐ子どもを愛し、品格を備え、希望を持って奉仕に当たるためにも、あなたは祈る人でなければなりません。

### 3. 祈るための工夫

聖書も、ただその字面を読むだけではいずれ飽きてしまいますから、みことばに親しむための工夫に知恵を使ってみましょう。デボーションのガイドを、例えば「日々のみことば」のような物を利用するのも手でしょうし、「成長」誌を利用している教会学校では、毎日読むみことばの箇所がありますから、それを利用するのも手でしょう。

ガイドを利用するだけでなく、祈り方にも工夫をしてみましょう。お財布にはさめる名刺大のカードに祈りの課題を常にはさんでおいて、必要な時に祈るとか、市販されている教師手帳にある祈りの課題を書き込む箇所を利用するとかできるでしょう。ちょっとした工夫で祈ることがとても楽しく出来るようになると思います。ぜひ聖霊から知恵を与えられ、教師として喜んで励んでいきましょう。

#### ディスカッションガイド

①あなたは何を祈っているのかを正しく理解していますか。祈るための工夫をどうしているでしょうか。

②何事も祈りをもって、と言われますが、実際生活の中で祈ることがどれだけあなたにより結果を提供してきたのかを、つまり祈ることで主が働いてくださったことを考えてみましょう。